

第1回 須坂市総合計画審議会専門部会 議事録（要旨）

1 会議名

第1回 須坂市総合計画審議会専門部会 元気部会

2 開催日・場所

開催日時 平成22年2月3日（水） 午後10時から12時20分

場所 市役所東庁舎3階 理事者控室

3 出席者

(1) 委員

小澤 吉則委員（部会長）、日向野 靖司委員、太田 哲郎委員、荒井 清治委員
欠席者

神林 清治委員

(2) 幹事・担当課

総務部長、産業振興部長、会計管理者、議会事務局長、農林課長、学校教育課長代理
（学校教育課長補佐）、総務課長代理（行政改革推進係長）

欠席：教育次長

(3) 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員

4 配布資料

資料1 第五次須坂市総合計画における前期基本計画素案策定の基本的考え方

資料2 国土利用計画策定の基本的考え方

資料3 第五次総合計画 施策体系・第四次 施策体系

資料4 第四次総合計画・後期基本計画の現状・課題について

資料5 117人会議提言書

資料6 「すぎか まちづくりミーティング」チラシ

資料7 第五次総合計画 基本構想 素案（第3回審議会協議後更新版）

5 審議状況（会議事項）

(1) 開会

政策推進課長

ただいまから須坂市総合計画審議会専門部会【元気部会】を開会いたします。

本日の会議につきまして、神林委員様より欠席の連絡を受けておりますのでお知らせいたします。

次に職員の出席でありますがこの専門部会につきましては、審議をいただきます事項に関係する担当部局長及び課長等もご出席いたしておりますのでよろしくお願いたします。

次に資料の確認をお願いいたします。

【資料の確認】

それでは始めさせていただきます。最初に小澤部会長さんからご挨拶をお願いいたします。

(2) 専門部会長あいさつ

部会長：

皆さん、おはようございます。

元気専門分科会の部会長を務めさせていただきます、長野経済研究所の小澤でございます。よろしくお願いいたします。

本分科会は、ご案内のとおり人口増のまちづくりと人づくり、そして戦略産業の集積づくりということで、まさに本審議会の中核的な議論をする分科会というふうに考えております。ぜひ皆さんの積極的なご意見をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

政策推進課長

ありがとうございました。

それでは早速、次第3の審議事項に移らせていただきます。

進行を小澤部会長さんをお願いいたします。

(3) 審議事項

① 第五次総合計画・前期基本計画、第三次国土利用計画策定の基本的考え方について

部会長：

それでは、今ご案内いただきました資料を順にご説明いただきたい訳ですが、まず審議事項(1)といたしまして第五次総合計画・前期基本計画、第三次国土利用計画策定の基本的考え方について、事務局から説明をお願いいたします。なお、本日の審議では後ほどの第四次総合計画・後期基本計画の現状・課題についての審議に時間を費やしていただきたいと伺っておりますので、調査結果報告の説明は簡潔・丁寧な説明をお願いいたします。それではよろしくお願いいたします。

事務局：

それでは、資料(1)第五次総合計画における前期基本計画素案策定の基本的な考え方について資料に添いまして説明させていただきます。

まず本日から皆様にお集まりいただきました専門部会ということで、これまでは全体会の総合計画審議会でご議論いただいております。前回までと今回以降の違いですが、前回までは基本構想を中心とした総合計画の大枠を皆様にご審議いただきました。本日から開催いたします専門部会につきましては、それぞれの専門の分野ごとに基本計画の内容をご審議いただきたいと思います。これまでの基本構想を中心とした議論から今回以降は基本計画を中心としたご議論をお願いしたいと思います。

そのような考え方の基本的な考え方を資料1に沿いまして説明させていただきます。基本的な考え方につきましては、第1回目7月2日に開催いたしました審議会で総合

計画策定についての説明資料に基づいて本日の資料1を作成してまいりました。

これまでお渡ししたものは、全体の流れを説明いたしましたので、本日のこの1につきましては、前期基本計画を中心に基本的考え方を述べさせていただきます。

基本計画の位置づけを再確認したいと思います。基本計画は基本構想で目標としての将来像を実現するためにその施策を実施する基本方針を基本計画の中で述べてまいります。

【事務局より 資料1を説明】

国土利用計画の概要説明

国土利用計画第三次須坂市計画につきましては、具体的には交流部会のほうで審議・検討していきます。元気部会におかれましても経過を報告する中でご意見等頂戴してまいりますと思いますので、内容について承知をいただきたいと思います。

【事務局より 資料2を説明】

部会長：

ただいま事務局から、今回の分科会の専門部会の全体との構造ということで、基本計画を決めていくのだと、その議論をしてそれぞれのフォーマットなりスケジュールをご案内していただきました。つづきまして国土利用計画が市町村の計画まで降りてくるとスケジュール的な位置づけを説明いただきました二つの資料1・2につきまして、ご質問ご意見ありましたらお願いいたします。

とくによろしいでしょうか。

② 第五次総合計画・前期基本計画施策体系について

部会長：

引き続きまして、協議事項（2）第五次総合計画・前期基本計画施策体系につきまして事務局からお願いします。

事務局：

つづきまして、資料3の説明をさせていただきます。

こちらの資料につきましては、12月24日の第3回で基本構想の素案をお示しさせていただきました一番後ろに示したものと同じ物でございます。現在、実行しております第四次総合計画の施策体系との整合、旧の物と新しく第五次総合計画で考えております施策体系案がどのように整合しているのかを一覧にしてあります。

第四次施策該当施策番号が旧の四次総合計画の施策に該当しているという見方になります。

こちらは体系の案ですので、現時点で事務局でお示ししましたものです。今後、具体的に基本計画の素案を作っていくにあたりまして、内容との整合を図るために文言の修正等も出てくると思います。これに縛られることなく基本計画の内容に沿った文言にしていきたいと考えております。ご意見等ありましたら修正等もしていただきたいと考えております。

それでは説明させていただきます。

【事務局より 資料3を説明】

部会長：

ありがとうございました。7つの基本目標うちの2・4・5が本分会の主なテーマという理解でよろしいでしょうか。

ただいま説明いただきましたが、何かご質問ございますでしょうか。

委員：

新しいものと古いものと順序が入れ替わっている程度で、だいたい総体的には同じだと理解するのですがそれでよろしいでしょうか。

事務局：

基本的には、そのように考えております。

委員：

たとえば、第四次総合計画でこういうことをやったけれども、これはいまひとつだな、これは十分上手くいっている等のそういう検証状況は出ているのですか。

事務局：

そちらにつきまして、一つは資料4で課題と捕らえているところを説明させていただきます。

部会長：

ほかによろしいでしょうか。

ちょうどご意見でしたとおり、この後（3）で第四次総合計画・後期基本計画の現状・課題についてご説明いただきながらそれのご意見等いただいきたいと思っております。

③ 第四次総合計画・後期基本計画の現状・課題について

部会長：

資料4の説明をお願いいたします。

事務局：

資料4の内容につきまして説明させていただきます。

第四次総合計画・後期基本計画が現状と課題についてですが、こちらの資料につきましては、本日だけの資料ということではなく、今後基本計画を作っていくにあたりまして、委員の皆様はじめ職員の方でもこれを活用して基本計画の方を作っていきたいということで、今後活用していただきたい資料としてお示しさせていただきました。

こちらの現状と課題につきまして、先ほどの資料1の中で基本計画の構成の部分で、現状と課題という項目がでてきますので、そこにも実際標記される内容も中にはありますので、これを基に基本計画の構成の中に落とし込むような考えでご発言いただければと思います。

またこちらの現状の報告課題の報告につきましては、課題などが出ておりますが、事業につきましては、今後引き続き行うかやめるのか。また、拡大していくか、縮小していくかにつきましては、これから原案を職員の方で作って参りますので、その中でその議論を第五次の基本計画素案作りの中でその議論を進めて行きたいと考えております。

この資料の時点では、まだこの先やめる、やめないといったものは含まれていないということをご承知お願いいたします。

他の部会の委員の方からご意見が出ましたが、施策ごとに第四次基本計画・後期基本計画の中では、目標数値の目指そう値を資料4の方に落とし込んでくれないかのご意見がございましたが、落とし込まなくても目指そう値は改めて現状値につきまして一覧にして、議事録を送付する時くらいまでにはお送りしたいと思っておりますので、目標数値の平成20年度までのものを落とし込んで目指そう値の一覧表を改めて作りましてお示しをしていきたいと考えております。

資料に沿って説明させていただきます。

【事務局より 資料4を説明】

部会長：

次の議論の主なものが、今ご説明いただいたことに対する意見なり、そういったものこのように解釈でよろしいですね。

全体のところを説明いただいた訳ですが、今日も一端この時点でお感じになつた不足部分とかご意見を委員4人いますので全体通じてお感じになつたところをお話いただければと思います。ご意見をお願いいたします。

委員：

印象としては、非常に幅が広いので何が一番特徴に、一つ言えば何なんだろうというのが見えづらいですけれども、産業面からなんですけれども、須坂の知名度が足りない、須坂ブランドということで課題の研究を進めていることがあるわけですけれども、農業にしても工業にしても観光にしても、いまいちインパクトが弱いということは、どなたも認めていることだと思うんですけれども、その割合には計画の中でどう対応するかということの強烈的な計画が見当たらないのが全体的な印象でございます。

部会長：

ありがとうございました。

そのところにつきましては、また骨太にお願いしまして、特に第1回にありました人を増やすという大変な目標を掲げていますので具体策はここはかなりきちんとしたことで埋まってこない、達成は難しいのかなというふうに思いますのでお願いしたいと思えます。

それから、やや細かいところでお聞きしたところで感じることは、34ページで大変すばらしいと思ったんですが、小学校3・4年生向けに私たちの須坂市という本を作って勉強していただいていることなんです、特に一昔前は各地区がとにかく偉くなったら

東京に行って出世しろというようなことでやっていたわけですが、今やそうではなく偉くなったら須坂市でもっと活躍してくれと、その為には教科書で地元の素晴らしさを知ってもらえるのは非常に素晴らしいことだと思いますので、ぜひこの部分は今後とも引き続き押し進めていってもらえればいいのではないかと思います。

それから、39ページですがエコファーマーのことおっしゃっているんですが、まさに技術面では1,000人を超えたんですが、実際販売方法というところでぶち当たっているということなんですけれども、これってきっとその下の農産物のブランド化を進めるアドバイザーという点と密接に関連しながらクリアされるんだろうなというふうに思いますので、そこもわかるような表現にさせていただければいいのかなと思いました。

それから、次の40ページなんですけれども、ここもグリーンツーリズムということで農家とか住民のニーズを把握してメニューを開発されたいという事で、今後計画されている訳なんですけれども、まさに今後修学旅行とかそういった人を積極的に受け入れている飯田市の例もありますので、ぜひああいった所にも負けないようなプランというのをたてる。特に旅行会社もメニューを非常に求めている。それを着地型観光ということでご提示されることに注力されれば一番いいのではないかと感じたところであります。

それから、42ページからは産業のことになってくる訳ですが、いろいろ企業ニーズの把握ということが随所で課題になっているのですが、まさにそのとおりで勝手な思いでやっても、地元の企業さんのニーズを把握しないことには地に足が着かないものですから、ぜひそのニーズを把握していただいて方向性を見出させていただくということで、これは団地なんかもそうなのですが、実際手狭になった皆さんが誘致よりもなにも、地元の皆さんのためにやるというようなそんな意向を強く反映させていただくといいのではないかと思います。

それから、45ページの商店街についてなのですが、これもアーケードを作ってどうのこうのということではなくて、須坂商人塾の開催ということでソフト部分を強調されているということで、まことにこれも素晴らしいと思ったのですが、今後はやはりハードではなく一店一店がどのようにしたら売れるのかということで、例えば大きなキャベツを一つでなく、今後一人暮らしが増加するものですから四分の一にして切って売ればいいですよとか、そういう細かいことが結局大きな商店街の活性化になるのではないかと思いますので、ソフト面の支援を引き続き強化されればよろしいのではないかとというふうに思いました。

委員：

全体を見て網羅なく取り上げているので、なにがなんだか判らない、落ち着いて全部読み直さないと判らない。

市としては、これを重点としてやってみたいというようなものを抽出していただければありがたい。

子育てについて、母子家庭について、いろいろ考えられていますが、父子家庭の問題がでてきている気がする。

母親が出て行ってしまったり辛い立場かと思うので、その辺を市が考えるのならばあ

りがたい。逆に他の市町村でやっていないのであれば、須坂で先駆けて何かを形出せないか。

学校教育で子供を育てることが重点課題だと思う。産業のない須坂は人を産業と見て、育てるといふようなことが重点としてもよいのではないかという気がします。

幅広く子供に経験させる。頭ではなく身体で体験させることを重点的に考えていただいた方がよろしいのではないか。たとえば、私が子供の頃は山に入って下草刈りをさせられたり、農家に集団で手伝いに行ったり、そういうことをやっているのだから、農家でない人間もある程度のことにはできるし、野菜畑をやっていますけれども、自信を持ってやっている。身体で覚えることを子供たちにやらせるようなことを考えてほしい。たとえば、海がないのは三浦市と姉妹都市として連携しているので体験させられる。そういうことを基本的において、人間をつくるんだということを打ち出せばいいのかなという感じがしています。

産業についても、高校で工業科の問題があると聞いていますので、市としても力を入れてほしいなということを感じます。

地元の産業は、それに協力して、たとえば社内で研修会をする素材をそのまま使って工業課の生徒に開放する。それを市の方は助成するというようなシステムが作れば内容もあれするし、地元に着くというような方向性で行くのではないか。ということで今から考えてほしい。

委員：

須坂としての特色をもう少し具体的な形で出されたほうがいいのかと、あわせてもう少し中期の中でやるには計画的な部分で掘り下げた部分の施策・課題をまとめた方がいいのかなというふうに思ったところです。

今話しがあったように、人材からというふうに私も思います。教育という部分、高等学校に対する今後新しい須高地域の総合技術学校、まさに工業を入れた新しいスタイルの高校ということで、他にはない須坂という部分をもう少し強調をお願いできないだろうか。つまり工業のまち、人づくりのまち、地域は人をつくり、人は地域を育てるといふ部分にスタンスを置いた形の狙いどころ、具体的には、まさにデュアルシステムを使った地域の産業との連携をもう少し協調したところができないかと思ったところがあります。

委員：

「個人情報保護を徹底します」や「プライバシー」という言葉が独り歩きして、人を縛っている気がする。地元住民が密着して助け合いましょうという方向に来ているのに、プライバシーが邪魔になってできない部分がものすごくあると思います。

プライバシーが借りてきた言葉のようになって、日本人本来の助け合いというところからいうと邪魔ではないか。これが一人歩きするとますます縛ってしまって小さい行政からという観点から今後進む方向で行けば縛ってどうしようもないのではないかという気がする。

委員：

産業の部分ではほとんどできると思うんですけども、数値目標という部分が産業関係によってもちょっと、この計画自体が数値を作らない計画という前提で作られれば別ですが、企業も教育ということに関して中期計画を作るのですけれども、漠然とした計画はやめよう、具体的にこういう人間を何人つくる等そういう目標を作らないとなかなか評価ができないというか、たとえば市民のアンケートを取りながらたとえば市民から1,000人のアンケートを取った、そのアンケートで目標は中以上が50位を目標に、たとえばサービスの向上を書くなら、数値はいろんな形で考えていくと使える部分があるのではないかと思いますので、全部とは申しません少なくとも日滝原の51%だけが非常に目立つのですけれども、では何%にするんですかということ目標としてもっててもおかしくない話だと思うんですね。

少なくとも、工業、農業、商業の産業に関してはしっかりとした目標を持って行政としてやっていただいているし、可能性としてはあるのではなかろうかな、その辺むりのない範囲の中で目標値をお示しいただければ理解が深まるのではと思います。

部会長：

その他について、引き続き事務局からお願いします。

事務局：

資料を進める前に数値目標についてですが、事務局の方でも前回の第四次の数値目標の設定と全く同じにするつもりはございません。

どのようなレベルまで数値を設定するのかというのも、これから目標数値設定検討庁内会議を開催しまして、どのような数値目標設定をするのか検討いたします。

その後、3月下旬の第2回の専門部会で基本的な考え方は示せると思いますので、ここで説明させていただきたいと思います。

総務部長：

目標数値につきまして施策ごとに定めていきますし、先ほどの重点事項につきまして重点プロジェクトを設けましてその中でもお示ししていきたいと思いますのでその時にまたご意見いただければと思います。

④ その他

事務局：

3つの資料を概要だけ説明させていただきます。

【事務局より 資料5、6を説明】

資料7について、昨日の時点でのご意見で「活力、文化、誇りがみなぎる田園環境都市 須坂」将来像について、「副市長から市長の公約をここに挙げているということで、10年間の総合計画の期間があり、そこに市長の任期があるので期限のついている公約をここに載せていいのか。」というご意見がございました。それとあわせて、「田園環境都市という言葉も人口推移がこれから10年間で4,000人近く減るという人口減少がさら

に進む中で、田園環境都市というのん気なことを言っていていいのか、市民とともに作り上げてこうするべきだという意気込みや積極性のある言葉を使うべきではないか。」というご意見がございましたのでご報告いたします。

委員：

もっと、どぎつい・生々しい言葉を使ってもいいのではないか。

たとえば、「今日も明日も生きるまち須坂」とか、単純明快に、あるいは厳しい、生きるということは、すべてを含む言葉だと思うのでそういう言葉でもいいのかなと考えていました。

事務局：

資料7について一点だけ説明させていただきます。

土地利用構想の中の都市的土地利用について二重下線「土地のあり方の再認識が必要不可欠です。」を追加してあります。

意図については、国土利用計画につきましては具体的な土地利用規制を行うことを述べるものではなく、方向付けや理念を定めるものであり、計画と土地利用構想との整合を図る必要もあるため、ここでは具体的手段については、述べないということで変更してあります。

これも現時点でこういう考えで入れましたが、また今協議していく中で内容につきまして修正等もあるかと思えます。現時点での基本構想の素案です。

部会長：

今日の資料説明は以上ですが全体通じてこれだけというのは一言あればお受けしたのですがよろしいでしょうか。

ないようでしたら、審議事項以上です。以降は事務局でお願いいたします。

6 今後の予定

政策推進課長：

次回第2回専門部会につきましては、今後庁内策定員会で基本計画の原案を作成いたしまして3月中旬以降に開催したいと考えております。開催日程につきましては、改めて事務局よりご連絡させていただき調整させていただきます。

今後の具体的な予定ですが、次第の4今後予定に記載してありますとおりです。

事務局からは以上でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

それでは本日の会議はこれにて終了させていただきます。

ありがとうございました。

7 閉会

終了 午後12時20分

以上